

おおがわら

議会だより



第178号

令和8年2月1日

QRコードから議会の情報をご覧ください

大河原町議会



夜空に灯る冬の桜

令和7年12月5日

(おおがわら桜イルミネーション点灯式)

- 住民投票条例案のゆくえ……②③
- 議案審議……………④
- 町政への提言……………⑤
- 委員会活動……………⑱
- 特集 議会だよりのあり方……⑳
- 町民の声……………㉒

白石川右岸河川敷事業 住民投票条例案

否決



令和7年8月に代表者証明書の申請が行われ、9月に署名簿が提出された。署名審査を経て10月16日に条例制定請求代表者から町長に署名簿を添えて条例制定請求書の提出があり、町長が「議案第63号 白石川右岸河川敷等整備事業（賑わい交流拠点施設整備及び管理運営）に対する住民の賛否を問う住民投票条例の制定について」を提案し、10月31日に議会を開いた。

「請求の要旨」及び町長から提出された「意見書」は、紙面の都合上、要約して掲載したものです。

議会当日の様子は
こちら。



住民投票条例請求 要旨

43億円の事業に町民の意思を

請求代表者 山口 正 憲

土盛り工事が進む本事業に対し、43億円もの巨額投資を「拙速に進めるべきではない」との声が多く、多くの町民から上がっている。周知不足は明らかであり、少数者のアンケート結果を町民の総意とする姿勢や、民間調査による事業性への懸念も無視できない。11月の業者決定・契約の前に、主権者である町民の意思を確認することは当然の責務である。一度、工事終了時に事業を凍結して計画を見直すべきであり、賛成・反対に関わらず民意をはっきりさせる手段として、住民投票の実施を強く求める。

町長意見要旨

確実な事業推進を

大河原町長 齋 清 志

本事業は平成29年度より宮城県と連携し、町民参加の検討会を経て策定した基本計画に基づき、スポーツを核とした広域的な賑わい創出を目指している。既に基本設計を終え、国・県の協力による費用削減を図りながら用地取得や盛土造成に着手しており、中州撤去予定など、事業は着実に進展している。本事業は町民の代表である議会での審議と予算可決を経て進められてきたものであり、今般の請求には疑問を禁じ得ず、大変残念に思う。住民投票の実施は、国や県との信頼関係を損なうばかりか、町政運営に甚大な混乱を招く恐れがあるため、条例を制定する必要はないと判断。ただし、町の将来を案じる住民運動の結果であるという事実は、真摯に受け止める。

討論 わたしはこう考える

議決責任の明確化

反対 佐藤 暁史

分断や争いは 何も生まない

住民投票は事業を止め今までの事業費を無駄にする。さらに次年度の補助もなくなる。議員が署名を集めることで住民の直接請求の意義を歪めた。議決を覆し町民に判断を丸投げするのは議員として無責任。事業の賛否を問うことで、町民感情に軋轢が生まれ町が二分するのを危惧する。また署名は個人情報開示が可能で、知らずに署名して不安を抱く町民がいる。今までの町民の要望が闇に葬り去られることになる。議員とは町民全体の幸せと町政の安定に努めるのが使命。よってこの条例制定を踏みとどまるべき。



賛成 万波 孝子

最終判断は 住民投票で

この事業は、施設整備費約18億円、維持管理運営費約22億円（16年間）計約40億円かかるスポーツ大型事業であるが、住民の合意形成には至っていない現状にある。「利用人口はどれだけいるのか」「税金の無駄遣いでないか」等々厳しい声がある一方、情報はまだまだ住民に届いていない現状を軽視することはできない。説明責任を十分果たし事業の是非の最終判断は住民投票で決めるべき。町の将来にとっても禍根を残さない最良の道と考える。



反対 遠藤 勇耶

この段階では 現実的でない

賑わい交流拠点施設の整備を進める立場から、住民投票の実施に反対する。住民投票を前例化すれば、重要施策のたびに意思決定が揺らぎ、町政が停滞するおそれがある。また、最終判断を住民投票に委ねることは議会の責任放棄であり、議会制民主主義の根幹を損なう行為である。さらに、事業者選定を目前にした現段階での住民投票は現実的ではなく、積み上げてきた議論や信頼を壊すことにつながる。町全体と将来世代の利益を見据え、議会が責任ある判断を行うべきである。



賛成 大沼 忠弘

町民の権利、 想いを大切に

今回提案の条例制定請求の要旨では町民の意思を確認することが求められている。このことについては町民の権利として妨げることは町政への反感を招いてしまうものと受け止めている。しかしながらいざ住民投票になった場合、有効性の設定など果たして町民の総意として認められるか否かと言った不備もあることを指摘する。町民の権利、想いを議会人としては大切にしなければならぬと熟慮の末、本請求は認め、町民の方々の考え、想いを受け止めつつ、理解を得ながら右岸整備事業を進めるべきと考える。



令和7年第4回定例会（10月第2回会議） 議案等審議結果

議 案	結 果 (賛成：反対)	議 員 別 表 決 結 果 一 覧										
		今野 智志	高屋 伸一	遠藤 勇耶	佐藤 暁史	中村 淳	佐久間 克明	大沼 忠弘	高橋 芳男	岡崎 隆	山崎 剛	万波 孝子
議案第63号	原案否決 (6:8)	○	○	×	×	○	×	○	×	○	×	○

《表決の区分》 ○：賛成 ×：反対 除：除斥 議：議長なので表決に加わらず 欠：表決時に欠席（欠席・遅刻・早退・退席） 投：無記名投票（人事案件など）

12月会議

12月会議は、12月3日から11日までの日程で開催された。農業委員会の委員の選任のほか、一般会計補正予算など16件の議案が提出され、すべて原案のとおり可決した。また1件の請願について審議したが、不採択となった。

議案第64号

●南小学校改修工事

568万7000円増額

施工にあたり調査したところ設計との差異があったことから金額を増額するもの。

- 補修の延長、面積の変更（外壁のひび割れ、欠損・モルタル浮き）
- ガラスシーリング更新工事の追加（昇降口、図書室などの窓など）
- 完成期日の変更（令和7年12月19日から令和8年2月20日に変更）



現在改修中の南小学校1号校舎

議案第65号

●国民健康保険税率の改定

町の国民健康保険事業を健全に運営するため、宮城県が示す標準保険税率を参考に国民健康保険税を見直すもの。

- 同意9件（農業委員会の委員9名の任命）
- 議案5件
- 補正予算 1億4000万円
- 条例改正など

可決



議会当日の様子はこちら



令和7年第5回定例会（12月会議） 議案等審議結果

議案	結果 (賛成：反対)	議員別表決結果一覧												
		今野	高屋	遠藤	佐藤	中村	佐久間	大沼	高橋	岡崎	山崎	万波	秋山	須藤
		智志	伸一	勇耶	暁史	淳	克明	忠弘	芳男	隆	剛	孝子	昇	勝利
請願第1号 日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書提出に関する請願書	不採択 (6:8)	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	○	○	×

《表決の区分》 ○：賛成 ×：反対 除：除斥 議：議長なので表決に加わらず 欠：表決時に欠席（欠席・遅刻・早退・退席） 投：無記名投票（人事案件など）

議決責任の明確化

10月会議

10月会議は、10月14日に開催され、1件の議案が提出され可決されました。また、専決処分^④の報告を2件受けた。

- 報告2件（専決処分2件）
- 大河原町立小中学校特別教室等空調設備設置工事
- 損害賠償の額及び和解
- 議案1件
- 上谷2号樋門改修工事

議会当日の様子はこちら



一般質問

町政への提言Q&A

一般質問とは、町長や教育長に対して事務の執行状況や将来に向けての考えなどを問い質^たすものです。今回は13人の議員が行いました。

今野 智志P⑥

- 町政全般の現状と今後の方向性について
- 賑わい交流拠点施設について

万波 孝子P⑦

- 国民健康保険税の税率改正（引き上げ）について
- 「こども誰でも通園制度」の導入に関して

高屋 伸一P⑧

- 大河原南小学校の施設状況について

佐藤 暁史P⑨

- クマ対策について
- こども誰でも通園制度について
- 消防演習などについて

高橋 芳男P⑩

- コンシューマー・リテラシー（消費者支援と教育）について
- 子どもに対する性暴力防止と日本版DBSについて
- カスタマーハラスメントの取り組み状況について

中村 淳P⑪

- 賑わい交流拠点施設アクセスについて

遠藤 勇耶P⑫

- 大河原駅東西連絡通路（跨線橋）のバリアフリー化について
- 職員が相談しやすい職場づくりのための「呼称運用」の見直しについて

大沼 忠弘P⑬

- 昆虫の町でブランド化について
- 時代に合った図書館、図書室の姿について
- スポーツ行政について

秋山 昇P⑭

- 観光振興について
- 児童生徒問題行動・不登校調査について

山崎 剛P⑮

- 横断歩道の設置について

須藤 慎P⑯

- 国の総合経済対策について

佐藤 巖P⑰

- 白石柴田線について
- 東部集会所について

岡崎 隆P⑱

- 所信の一端と予算、事業の進捗を伺う

内容は、大河原町議会ホームページ内の「インターネット議会配信」で視聴できます。
(<https://ogawara-town.stream.jfit.co.jp/>)
各一般質問の録画は、QRコードからご覧いただけます。

一般質問

空き家問題

※さかさま不動産で活用を

主旨は理解するよう



の 志
今野 智 志

問 空き家問題は、ここ数年状況に変化はなく慢性化している。負の遺産として扱われがちだが、視点を変えれば地域に新たな人の流れや活動を生み出す資源にもなり得る。町内では空き家だけでなく活用していない店舗や事務所、店舗併用住宅などがある一方で使い手とつながらず眠っているケースも少なくない。さかさま不動産という制度がある

り空き家対策のひとつとして調査検討する意義はあると考えるがどうか。

町長 主旨は理解できている。行政としてやれるところがあるのではないかと、という視点は同感するところ。

問 ゴミ分別については現在、その他プラは全量焼却され容器包装プラも分別の期間に対し、実際にはリサイクルされず50%以上が焼却されている

事実がある。その一方でクリーンセンターでは燃やす為の灯油を年間30万リッター以上購入している事に矛盾を感じる。発電と売電もしているが、発電量を上げ町の負担金と町民の負担を減らせるように、ゴミの出し方の見直しなど協議できないか。

問 校庭や公園では子供達に人気のジャングルジムなど大型遊具が軒並み撤去されてきている。安全性や管理者責任を優先するのは理解するが、危険も伴う一方で体を使い自分の力で挑戦し、達成感や自信を育てる大切な経験と心の成長の場でもある。興味を持つ外遊びの場が減った結果、スマホの使用時間が増え、睡眠時間が減り、運動能力と



町長 負担額を減らすことは必要。利用促進策などを業者と共に実施する。

学力低下との関係性も問題視されているが見解は。
町長 アンケートや調査結果では変容は見られていない。遊具は危険性が高いものは撤去していく。

賑わい交流拠点施設

問 年間維持管理費のうち施設利用料で賄われるのは1500万、残り1億2200万は町が毎年負担する。利益を上げ少しでも負担分を減らしていくことは必須。業者任せではなく町側が強い意志を持って取り組みなければいけないと思うが。

引き上げる理由は

基金不足等から判断した

4人家族で夫が年収300万円、妻が無職の場合約2万3000円の増額



何もかも値上げて先行き不安だらけ

2025年で全国177自治体が国保料(税)を引き上げている。この背景には2018年度から始まった「国保の都道府県化」がある。

本町も税率改正し、来年度から国保税を引き上げることになった。低所得者が多く加入しているのと同様。

町長 引き上げは基金不足から判断した。法定外の一般会計からの繰入れは交付金の減額につながり国保財政をさらに厳しくする恐れがあり考えていない。

問 16年間国保税を引き上げないできたことは評価するが、物価高騰で苦しんでいるなか引き上げは被保険者を一層苦しめることになる。一般会計からの繰入れで引き上げにストップをかけるべき。

町長 引き上げは基金不足から判断した。法定外の一般会計からの繰入れは交付金の減額につながり国保財政をさらに厳しくする恐れがあり考えていない。

問 4月からスタートするが課題は。校保育所の在園児と合同で保育を行うため保育士の負担が増えることなどと考えている。

町長 校保育所の在園児と合同で保育を行うため保育士の負担が増えることなどと考えている。

問 全国町村長会も国に「国保の1兆円の公費投入」を強く要望している。県町村長会の会長を務める町長として一層働きかけていくべき。

町長 会長の立場であるので国に対して訴えていく。



の 孝子
万波 孝 子

子ども誰でも通園制度がスタートするが

普段保育所などに通っていない子ども(0歳6か月から満3歳未

子ども家庭課長 11月に保育所と打ち合わせをした。疑問点を出しあい、先行自治体に問い合わせをして不安解消に努めている。視察も予定している。

一般質問



たかや しんいち
高屋 伸一

や経年劣化により錆やゆがみが生じているため、スロープ板の更新や設置個所の見直しなど、改善に向けて検討する。

学校施設の整備促進を

南小環境

順次進める

問

南小学校の外構フェンス更新工事（老朽化対策）について2021年に白石第一小学校で校庭の防球ネットの支柱が折れ、2名の児童に直撃し1人死亡、1人が重傷の痛ましい事故が起きている。過去の事例を教訓として、同じ事故が起これぬよう安全意識を高めることが果たすべき責務であると考えるが。

教育長

南小学校外構フェンスは令和7年3月の強風で破損したものである。フェンス設置箇所には、現在大河原南小学校1号校舎等の改修工事の現場事務所を設置しており、その周囲にも防護ネットを設置することで、児童が危険な場所へ近づけないようにしている。今後修繕する予定。

問

雨水滞留箇所（南小学校正門脇）について、雨水の流れが滞り水はけが悪く、児童の歩行・車両の通行に支障をきたしている。雨水滞留による道路の劣化や衛生上の懸念があるため、グレーチング整備等の計画はあるのか。また南小学校正門前に設置されている段差プレートが、雨水の影響によりさび付いているため滑

教育長

雨水の滞留については保護者が送迎の際の駐車場として使用している校門脇の砂利敷の敷地と、校門前通路との段差解消のために置かれたスロープ板が雨水をせき止めるために発生している。またスロープ板についても、雨水の影響



古いスロープは危険

問

保護者への周知、申請窓口などはどうなっているか。

町長

ホームページ、子育て情報アプリで周知を行う。申請は「子ども誰でも通園制度総合支援システム」を活用しオンラインで行う。

消防演習など

問

消防演習は今後も11月に固定するのか。

町長

消防団の意向、各種行事と調整を行う。

問

長時間の訓練でトイレが無い。女性団員も安心して使えるトイレを設置するべきではないか。

町長

堤防、大河原公園にトイレが設置されている。

問

トイレカーが必要ではないか。災害時、トイレカーはレンタル可能。

草刈り、放任果樹の伐採を

必要あれば町をあげてやる



クマ対策。町民の暮らしを守れ

問

本町ではクマの目撃情報や痕跡の報告があり、町民の不安も高まっている。

町長

クマ通報窓口など情報提供しやすい環境づくりを。クマに関する通報は農政課。クマを呼ばないため農作物の回収や廃棄物剪定への助

町長

成や、通学路など山に近い場所に電気柵の設置は考えられないか。県や近隣自治体の情報を収集し検討する。

問

緊急銃猟の際、ハンターは確保できるか。

町長

7名の人員を確保している。

問

町でスラッグ弾を支給し訓練してもらっているのか。

農政課長

有害鳥獣協議会で助成している。

問

小中学校、幼稚園、保育所でクマ出没の際に対応マニュアルはあるか。

町長

マニュアル、取り組み事例を各施設と共有を図っている。

問

小中学校、幼稚園、保育園で具体的なクマ対策はあるのか。

町長

クマ鈴、ホイッスル、爆竹、ロケット花火を各施設に配布している。

問

行政区でも希望すれば爆竹が貰

子ども誰でも通園制度

2026年4月から義務付けられている制度。

問

どの施設、何力所を想定しているのか。

町長

桜保育所1箇所のみ。

問

受け入れ人数は。

町長

0歳児から2歳児まで各2名を想定。

問

保育士はイベント時に業務量が増える。現場の声は把握しているか。

町長

イベント時の受け入れは、どのような対応が望ましいのかという声がある。適切な運用に向け検討を進める。

町長

災害時、トイレカーはレンタル可能。

施設利用の原則に柔軟性を

指定管理者と協議



おお ぬま ただ ひろ
大 沼 忠 弘

問 施設利用については原則として使用一カ月前、前月15日までに使用申請が必要となっており、それ以降は利用したい施設に予約がなく空きが有

っても借りれない。しかし明らかに空いている場所を使用できないのは合理性に欠ける。使用できれば当然ながら使用料収入も発生し、利用者側も助かるので



申請締切後でも空いているなら利用可に

よう指定管理者に要望

双方にメリットの方が大きいと考える。施設利用の原則を柔軟性のある、さらに利用者に寄り添った形に修正するべき。

町長 原則として事前の利用申請を義務付けている。一部の施設においては、利用申請がない場合は一般開放している。利用者への周知を行う観点から、申請に際し一定の期間を設けているが、現在はSNS等を活用し周知ができるので、利用申請の期日については、可能な範囲において柔軟に対応できるよう指定管理者に要望

町長 「昆虫館建設構想」について検討がなされた経過がある。用地の選定や建設に係る財政負担などの

問 常設の標本展示場についてこれまで検討されたことはあるか。

町長 昨年3日間の開催に対し、本年度は7日間に拡大し、好評を得たと捉えている。

問 毎年開催の昆虫展は好評であることから、期間の延長や規模の拡大の考えは。

町長 昆虫の聖地協議会に加盟してみたい。

問 昆虫の聖地協議会に加盟してみたい。

図書館・図書室

問 館内BGMを流してはどうか。

教養 難しいものと考えられている。

問 専門の分野に特化したコーナーを充実させることでブランド化を図ってはどうか。

教養 スペースに限りがあることなどから難しいと考える。

一般質問

バリアフリー化

駅連絡通路にエレベーターを

架け替え以外の方法がない



えん どう ゆう や
遠 藤 勇 耶

大河原駅の東西連絡通路（跨線橋）は町が管理する公共施設であるが、階段と自転車用スロープのみの構造で、高齢者や障がいのある方、ベビーカー利用者にとって利用が困難な状況にある。実際に「階段の上り下りがつらく、離れた踏切を利用して」といった声もあり、安全面の不安も指摘されている。バリアフリーは利便性の問題ではなく、誰もが安心

町長 施設名称「大河原駅前自由通路」は町が一体的に管理している。

町長 エレベーター設置を含むバリアフリー化についてこれまでの検討状況、今後の方針は。

問 この施設において町が管理する範囲は。

町長 すべての利用者へ配慮が行き届かない部分もあることは理解しているため、要望等を精査し今後に向けた改善に取り組みが必要であると捉えている。

協議したが、強度的な問題、設置位置の物理的な問題で断念した経緯がある。建築後約38年を経過していることから、自由通路の全体的な改修、架け替えを含め慎重に検証していく必要があると認識している。



「遠回り」を強いる、この階段

問 職員が相談しやすい職場づくりの観点から、呼称運用

町長 職員の風通しや円滑なコミュニケーションの重要性は認識している。

問 全国では管理職も含め「さん付け呼称」を導入する自治体もある。本町でも検討できないか。

町長 効果が期待される一方、責任意識や秩序への配慮も必要であり、慎重に考えていく。

一般質問



のぼる 秋山

レンタル・シェアサイクルの導入は

観光振興

検討している

問 町内ツアーガイドを開催しては。県内を周遊する「伊達なバス旅」を実施している。

町長 レンタル・シェアサイクルを導入しては。賑わい交流拠点施設のオープンに向けて検討している。

問 観光の目的と成りうる「モニュメント」を設置してはどうか。

町長 観光の目的と成りうる「モニュメント」を設置してはどうか。

問 今後、町内外から共感し本町と関係性を持ち、誘客力を見込まれるモデル設置を検討する。

町長 今後、町内外から共感し本町と関係性を持ち、誘客力を見込まれるモデル設置を検討する。

町長 映画やテレビ等の撮影に積極的

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

問 観光物産協会でも出来ないか。今年度より仙台南地域のみの

町長 今年度より仙台南地域のみの

児童生徒調査

問 いじめに対する対応は。

教育長 人間関係づくり、定期的なアンケート、早期発見に努めている。日頃より生徒のサインを見逃さず、迅速に適切な対応をしていく。

問 不登校に対する対応は。

教育長 各校とも月1回から4回程度の

問 不登校に対する対応は。

教育長 各校とも月1回から4回程度の

問 暴力行為に対する対応は。

教育長 基本は互いに相手の授業。互いに聴き合うこと。ペア・グループ活動の授業の中に取り入れ、未然防止に今後共に取り組む。

問 暴力行為に対する対応は。

教育長 基本は互いに相手の授業。互いに聴き合うこと。ペア・グループ活動の授業の中に取り入れ、未然防止に今後共に取り組む。



交通インフラの拡張を

横断歩道の新規設置を

設置は難しい



薄れている道路標識

問 歩行者の横断歩道について伺う。

町長 歩行者の横断歩道について伺う。

町長 歩行者の横断歩道について伺う。

町長 歩行者の横断歩道について伺う。

は、宮城県公安委員会の管轄となっている。横断歩道の数は大河原警察署管内で約700箇所あり、横断歩道や一時停止線の薄れなどの確認は、パトロールの際に確認し、交通量が多く標示が消えているところから再標示を行っている。特に歩行帯のカラー化は、小学校周辺や大河原駅周辺の車と歩行者が混在する道路で実施している。また、道路パトロールの際に状況を確認し、新設や再標示を行っており、今年度は大河原中学校校舎脇の道路で実施した。来年度以降

も大河原産業高校方面にも工事を進め、歩行者の安全確保に努める。横断歩道の新規に標示すること、に何か難事な取り決めがあるのか、例えば公安委員会からの認可等を伺う。

町長 横断歩道の新規設置については、宮城県公安委員会が設置の判断をしている。新規で横断歩道のみを設置を要望する場合は、公安委員会ですその場所が設置基準に合致しているかを判断し、設置基準に合わせた道路改良を求められることもある。

問 朝夕の児童生徒の登校、下校の時間帯に危険な道路横断している子ども達、高齢者の方を見て事故がいつ起こっても不思議ではない。場所は町内字町、西の寺と東の

寺の丁字路で、交通量も多いため横断歩道の設置をすることはできないか。

町長 大河原警察署に確認したところ、歩行者の数が少なく、歩行者の滞留場所の確保ができないことから横断歩道の設置は難しいとの回答を受けた。

歩行者ファースト



つよし 山崎

一般質問

国の経済対策

農業機械購入に助成を

支援を検討していきたい



しん 慎 藤 須



経営にも大きく影響するため農業機械等の購入への支援も含め、持続可能な農業を目指した支援を検討していきたい。

問 小中学校体育館へのエアコン設置する際に、「学校施設環境改善交付金」や、「災害時に備えた社会的な重要インフラへの自動的な燃料備蓄の推進事業費補助金」等を活用すべき。その中で、「ガス式エアコン」は、災害時の停電の際にも使用可能であることから選択肢のひとつと考えるがどうか。

町長 「ガス式エアコン」導入は有力な選択肢のひとつとなり得る。他の方式と比較検討し、最も適した方式を採用したい。

政府は、11月21日の臨時閣議で経済対策を決定したとの報道があった。その中のひとつに「重点支援地方交付金（自治体が自由に使える交付金）の拡充」がある。依然として続く物価高の中で町民の生活に直結する経済対策であり、地方自治体に与える影響も多い。

問 重点支援地方交付金の配分額（国の補正予算成立がまだのため見込み額）は、令和6年度の額の概ね330%以上となる見込み。

町長 令和6年度の額は約6000万円だったため、今回は約2億円ということではないか。

問 令和6年度は、約6000万円

政策企画課長 そうなっている。この重点支援地方交付金を活用して農家へ支援すべき。農家への支援を検討している。

問 今回、「おおかわら商品券事業（一人5000円）」を町の一般財源を使っているが、今回の重点支援地方交付金を活用する考えがあるのか伺う。

町長 重点支援地方交付金を活用したい。

問 この重点支援地方交付金を活用して農家へ支援すべき。

町長 農家への支援を検討している。

問 これとは別に、農家の方々が農業機械等を購入する際に、国・県の助成金申請が全く採択されない状況にある。仙南2市7町で助成していないのは、大河原町と蔵王町だけで、補助・助成すべきと考えるがどうか。

町長 農家にとって、農業用機械等の購入は、営農するために必要なものであり、

生活密着型の社会資本整備」のワークショップを合計11回開催し、県道についての問題点を洗い出し、解決策、方向性を協議した。その結果に基づき宮城県が事業主体となり、すれ違い可能な待機所の設置を「9箇所」、道路の拡幅「約294メートル」の改良工事を実施し令和7年3月に完了した。本工事の完了により、すれ違い可能な区間が増えたことから、県道白石柴田線の車両通行については大きな成果が得られている。



通勤時間帯は交通量が多い

問 上谷地区、上大谷地区より長年にわたり要望がある白石柴田線（宮城県道50号白石柴田線）の拡幅工事。拡幅について県への要望を考えているのか伺う。

町長 県道白石柴田線の拡幅については、平成31年3月より「上谷1区・上谷3区・上大谷地区の住民」、「大河原土木事務所」、「本町」の3者による「地域住民と連携した

東部集会所

問 東部集会所の建て替えだが、今年度中に幸中関係行政区長との協議の場を設け整備方針の検討を進めるのか。進捗状況を伺う。

15日付け東部七地区連絡協議会からの要望におきましても同様の質問があり、早い時期に関係行政区長との意見交換の場を設け、整備方針の検討を進めていきたいと考えている。



高価な農業機械

県に拡幅の要望を

工事は令和7年3月に完了

白石柴田線



い 岩 藤 佐

改めて行政区の人口動向、近接する幸中島集会所を含めた利用頻度、地域の意向と利便性を考慮した施設の在り方などについて整理・情報収集を行っているところである。本年11月

一般質問

しせい
市井

所信の一端を問う



おかざき
岡崎 隆

今後もていねいに取り組む

考える。
『市井』という
住民が暮らす場
所を表す二文字につい
て町長はどのような認
識をお持ちか伺う。
情を丁寧に受け止め施
策の検討に努める。

町長 日々の生活が営
まれる地域社会、
いわゆる庶民の生活の
場所のことと受け止め
ており、今後とも『市
井』の感覚や町民の実

問 10月に議会に提出された住民投票を求める多くの署名簿が添えられた条例が議会に諮られ、僅差8対6で否決となり住民投票は実現されなかった。一連の署名に賛同した住民の動きと議員の行動について町長はどのように受け止めたのか伺う。

町長 10月会議の住民による条例制定の直接請求について

は、本町の将来を思う町民の方々の貴重な運動の結果であり真摯に受け止める。また、議員に関してはその立場から判断された行動だと思いが、議会との関係を踏まえると必ずしも望ましい形とはいえない面もあったと考え

町長 不満もあったものの受け止めている。引き続き丁寧な情報提供を行い町民の理解につながるよう努める。

町長 職員はそれぞれ
の担当業務において適切に私に助言や修正点を報告してくれている。多選による影響は様々な意見があることは承知しており多様な意見を丁寧に伺うことが今後重要と



市井を意識した町政を

委員会活動

身近な学びの場に、次の答えを

小中学校の理科設備と駅前図書館を調査

文教厚生
常任委員会

国の補助金や町の予算を活用し、顕微鏡などの理科設備の整備が進められていることを確認。駅前図書館は本を保管するスペースが足りず、蔵書管理が十分にできていない状況。商業施設内でテナント移動の動きがあり、施設の使い方を見直す時期に来ている。



委員の視点

理科教育については国の補助率が下がる中、学校現場の声をしっかり受け止め、備品や消耗品の計画的な予算確保が重要である。駅前図書館は、早めに運営や施設の方向性を整理し、必要なスペースの確保を進めるとともに、町民が利用しやすく駅前のにぎわいにつながる図書館を目指すべき。

千本桜の危機と、川辺の可能性

桜の複数品種育成と白石川右岸河川敷等整備について調査

総務産業
常任委員会

桜については開花時期の異なる品種を調査育成し、町内で1か月半ほど桜を楽しめる名所づくりを目指している。その一方で早期落葉が見られ、土壌の激しい水分不足による樹勢低下が進んでいて倒木の危険性もある。このままでは3～5年のうちに枯死し歯抜け状態となるおそれ。白石川右岸では、賑わい交流拠点施設整備に向けた盛土造成工事が進み、11月時点で約4割が完了しているが、130台という駐車場台数や景観面に不安が残る。



委員の視点

桜は延命対策と欠損時の対応を早急に進めるとともに、苗木育成体制の強化や後継者の確保が必要。育てた桜を活かした新たな名所づくりを早急に検討すべき。賑わい交流拠点施設については、将来の町のイベント利用なども見据えた駐車場確保や、中州の撤去など景観改善にも配慮し、町の魅力向上につながる整備を求めた。



大河原の議会だよりって どうあるべきなんだろう

岩手県雫石町および西和賀町を視察

全国コンクール常連の議会から工夫を学び、伝え方を見直す

議会広報常任委員会は、委員会のレベルアップと議会だより作成スキルの向上を目的に、令和7年11月10日から11日にかけて、岩手県雫石町および西和賀町で視察研修を行いました。両町とも町民の声を大切にしながら、より多くの人に「読まれる議会だより」を目指し、委員一人ひとりが強い思いと熱意を持って編集に取り組んでいることが印象的でした。



雫石町議会広報委員会の皆様



西和賀町広報委員会の皆様

具体的には定例会終了後おおむね30～40日以内の発行を目標とするスピード感のある編集体制や、2色刷りでも季節に応じて色を変える工夫、写真や図、表を効果的に配置した見やすいレイアウトなど、多くの参考となる取組を学びました。また、町民の関心が高い議案を優先して掲載することや、一般質問ページを読みやすく構成する工夫、議員が輪番で企画ページを担当するなど、議会を身近に感じてもらうための努力が随所に見られました。

もっと手に取ってもらえる議会だよりへ

議会や議員が何をしているのか、もっとわかりやすくより伝わるようにするべき



議会に対しての町民の声を積極的に聞いて、その意見を掲載したほうがいいのでは



今回の視察後、委員会内でも活発な意見が飛び交うようになりました。

議会だよりはどうかあるべきか、どのような役割を果たすべきなのか。まだまだ手探りではありますが、現在議会はさまざまな改革に取り組まっています。視察で得た学びを生かし、次回以降の編集作業から取り入れられる点は積極的に反映していきます。ぜひこれからに注目し、みなさまの声をお寄せ下さい。



仙台市で行われた議会広報クリニックにも参加し、大河原で発行した議会だよりの改善点を指摘してもらいました。

こんな町に住みたいな



大河原中学校
かんの 菅野 楓さん

私は、魅力を発信し、賑わう町になってほしいと考えます。大河原には有名な「一目千本桜」や菓匠三全などがあります。また、現在建設中の千本桜スポーツパークにはゴルフ場やバイクコース、カフェなど様々な施設がでます。そこで、大河原町民や他の地域から来た観光客にとっても憩いの場として賑わっていきと思えます。これらの良さや利便性を活かし、大河原を広めていき、町もより発展していくと良いなと考えました。



大河原中学校
すずき 鈴木 想世さん

私は誰もが安心して豊かに暮らせる町が理想です。大河原町は公園が多く、行政がまとまっていて暮らしやすい反面、病院や交通手段が豊富ではないという課題があると感じます。私は昨年防災士の研修を受けた際、地域防災や避難所開設について学びました。子どもや高齢者が安心して過ごせるように、防災や防犯について地域住民が繋がり、自分たちで意見交換ができる場があれば良いと思いました。

3月議会のお知らせ

招集日 3月4日(水)・再開日 3月10日(火)
詳細は議会事務局まで ☎53-28000



今回の表紙は

表紙は、冬の夜を彩る「おおがわらさくらイルミネーション」の一場面です。満開の桜を思わせるやさしい光が町を包み込み、多くの来場者でにぎわいました。点灯式では、関係者や実行委員が一堂に会し、地域への感謝と今後の発展への願いを込めて開催されました。世代を超えて楽しめるこのイルミネーションは、大河原町の魅力と人のつながりを改めて感じさせてくれる、冬の風物詩です。

編集後記

現広報メンバーになってから、評価の高い広報誌を発行している自治体の視察や広報研修を受講した直後の発刊になる今号。見やすくなりやすい広報誌を念頭に、誌面の校正作業を行いました。様々な意見を交わしながら苦心の今月号です。新年度を目標に誌面の大幅刷新を検討しております。いかにせん定型のスタイルになりがちなので、ご意見や感想をお寄せいただければ幸いです。

(大沼 忠弘)

編集発行責任者 議長 丸山 勝利
議会広報常任委員 議長 中村 淳
副委員長 佐藤 暁史
委員 大沼 忠弘
委員 高屋 勇一
委員 今野 智志

インタビュー

町民の声

町に望むことをお聞きしました。

大河原町で 子育てに奮闘中

プロフィール

さいとう みずき
斎藤 瑞希 さん (住吉区)
大河原町出身

現在、夫と子供三人の五人暮らしです。
大河原町といえば、

【白石川堤一目千本桜】が有名ですが、残雪の蔵王連峰を背景に、川沿いに広がる桜並木は絶景で圧巻です。川面に映る桜と雪山のコントラストは、癒しとなっており大好きです。心を和ませてくれるこの桜並木を、多くの方々に見てほしいと感じております。又、樹齢百年を超える桜があると聞きましたが、大河原の桜の木を大切に守ってくださる方々に心から感謝しております。未来の世代にも見てもらえるように、この桜並木が変わらずに長く咲き誇っていてほしいです。大河原町に住んでみて思うのは、どこへ行くにも移動し

やすく便利な所と、官公庁や病院が町内にあり、暮らしやすく住み心地がよい点です。

室内で遊べる 場が欲しい

育児をして、日頃から感じている事は、子どもたちが安心して過ごせる町づくりをお願いしたいと思います。近年の気候の変動により夏の猛暑や豪雨などで屋外での活動の難しい日が増えております。天候に左右されず、安全に体を動かし遊べる環境が欠かせません。子どもたちが体を動かしながら楽しめる年齢に応じた遊具の整備と広いスペースがあれば子育て世代の交流や情報交換もできて、地域での絆を深められる場が設けられることを期待しております。悪天候時にも、自由に走り回れる室内遊び場の整備と、保護者が安

心して見守られる環境が整うことを心待ちにしております。

安心して子育て できる小児科の 増設を

子育てするにあたり、身近に安心して受診できる小児科が必要不可欠です。既存の医療機関の小児科の診療体制が十分とは言えず、急な発熱や体調不良の際には隣接する地域の病院まで足を運ばなければならぬ現状があります。これは、大きな負担になってきております。小児科が増えれば、子どもの健康管理がしやすく、保護者の不安も軽減され安心できます。病気の情報発信や予防接種の情報も分かりやすく届けてもらえたら助かります。そして、子育て世代の定住につながってほしいなと思います。併せて、保育園や幼稚園に

入りやすくなること・学童保育の時間が柔軟になると、働く保護者にとっても大きな支えになり安心できます。どうか、子育て世代の声に耳を傾けていただき、町全体で未来を担う子どもたちのためにより安心で温かい環境づくりを進めていただければ幸いです。誰にとっても居心地の良い町になりますよう、町のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

